

会 報 <第405号>

次代を築くヒューマン・ネットワーク
一般社団法人兵庫県建築会



発行日 令和 元年 7月 1日

<目 次>

- 第475回(令和元年6月)月例会報告 …別冊
講演テーマ:『伊能忠敬・兵庫の足跡とその生涯』
講師 小嶋 明氏 生涯学習まちづくりひょうごネット代表
伊能忠敬・多可の道プロジェクト共同代表
- I 特別寄稿 都心三宮の再整備および新神戸文化ホールの整備について …2～3頁
神戸市都心再整備本部三宮再整備課
1 神戸三宮「えき＝まち空間」基本計画の策定 3 新・神戸文化ホール整備計画(案)
2 雲井通5丁目事業協力者の選定 4 今後の取り組み
- II 寄 稿 神戸秘話第23回『戦後初の女性議員^{こうら}高良とみ
激動の時代に世界平和を希求した平和運動家』 …4頁
(一社)兵庫県建築会 会 長 瀬戸本 淳
- III 見学レポート ぶらりまち歩き『西国街道と兵庫津』 …5～6頁
(4) 湊八幡神社～七宮神社
(株)岡工務店 専務取締役 岡 澄彦氏、事務局
- IV 花だより 山法師、あじさい : 摩耶山天上寺 …7～8頁
- V お知らせ 行事案内、事務局だより、広報コーナー …9～10頁

今月の花だより : 山法師、あじさい (天上寺 : 神戸市灘区摩耶山町) 撮影日 19'06.08

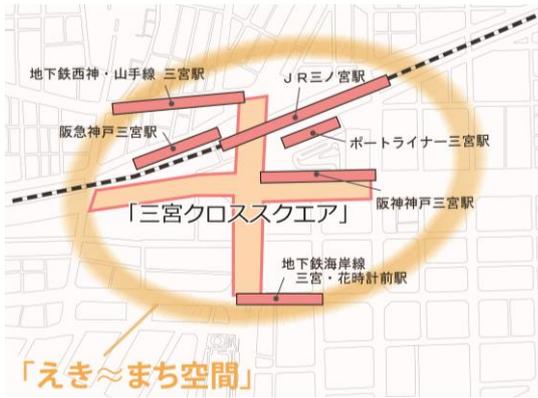


I 都心三宮の再整備および新神戸文化ホールの整備について

神戸市都心再整備本部都心三宮再整備課

1. 神戸三宮「えき〜まち空間」基本計画の策定

三宮の再整備において、「えき」と「まち」をつなぐ神戸を象徴する新しい駅前空間として「えき〜まち空間」を創出することを示していましたが、その実現に向けて官民共通の具体的な目標像等を示す、神戸三宮「えき〜まち空間」基本計画を平成30年9月に策定しました。

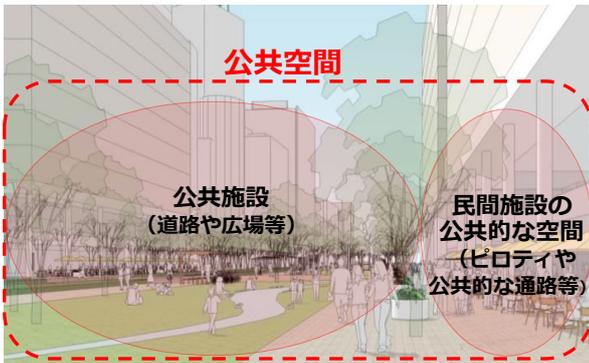


○「えき〜まち空間」の目標像

- ① 三宮の6つの駅があたかも一つの大きな「えき」となるような空間
- ② 「えき」と「まち」が行き来しやすく、より便利で回遊性を高める空間
- ③ 美しき港町・神戸の玄関口にふさわしい象徴となる空間

○基本的な考え方

基本計画では、「空間」「交通」「景観」の3つの視点で、基本的な考え方及び今後の取り組みを示しています。行政が中心に整備する「公共施設」と、「民間施設の公共的空間」をあわせて「公共空間」とし一体的に整備します。



▲官民連携による一体的な空間整備イメージ

○核となる「三宮クロススクエア」

三宮交差点を中心にフラワーロードと中央幹線の一部において人と公共交通優先の空間「三宮クロススクエア」を創出します。

「三宮クロススクエア」は、必要な対策を実施し交通状況を見ながら段階的に進めます。

○「エリアマネジメント」の取り組み

「えき〜まち空間」を賑わいのある空間とするために、多様な関係者の協働によって、公共空間の利活用、管理運営を行う「エリアマネジメント」に取り組みます。

2. 雲井通5丁目事業協力者の選定

新たな中長距離バスターミナルを含む雲井通5・6丁目の再整備では、段階整備のI期となる雲井通5丁目において事業協力者の公募を行い、平成30年9月に三菱地所を代表とするグループを事業協力者に選定しました。

○事業協力者の提案内容

事業協力者からは、世界的建築家である坂茂氏のプロジェクトへの参加や、バスターミナル待合空間を核とした賑わい拠点「ばす〜まち空間」、ビル基壇部の屋上庭園と一体化した開放的な図書館「スカイライブラリー」、低層部に集まる人の流れを施設上部に誘導する立体街路「バーティカルパサージュ」等、様々な提案がされています。



▲北東から見る建物外観



▲ビル中低層部イメージ



▲バスターミナル



▲スカイライブラリー



▲「ばす〜まち空間」



▲バーティカルパサージュ

※提案内容はそのまま実現されると決まったものではありません。

3. 新・神戸文化ホール整備基本計画（案）

三宮の再整備では、神戸文化ホールの老朽化に伴う新たな文化ホールの整備も検討しており、「新・神戸文化ホール整備基本計画（案）」を作成しました。

○施設の配置計画

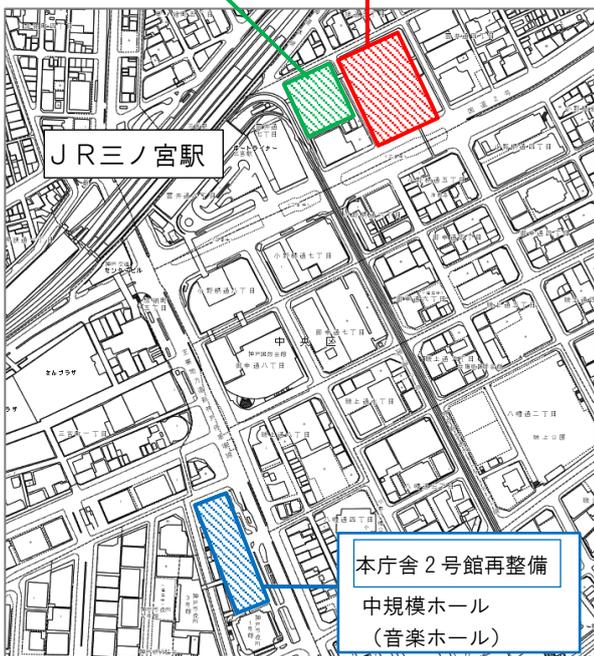
「大ホールと中規模ホール（多目的ホール）」を「雲井通5・6丁目地区再整備」において、「中規模ホール（音楽ホール）」を「市役所本庁舎2号館再整備」において配置していきます。

雲井通5・6丁目地区再整備
（Ⅱ期：雲井通6丁目北地区）

中規模ホール
（多目的ホール）

雲井通5・6丁目地区再整備
（Ⅰ期：雲井通5丁目地区）

大ホール（多目的ホール）
創造支援機能
交流機能
管理機能



本庁舎2号館再整備
中規模ホール
（音楽ホール）

○整備方針

次の機能・役割を果たすことを方針とします。

- ①市民の誇りとなる、神戸らしい芸術文化の発信
- ②市民主体の芸術文化活動の促進、更なる高度化の支援
- ③芸術文化を担う創造的人材の育成と活用
- ④多様な人材が交流し、まちのにぎわいを生み出す空間と経済波及効果の創出
- ⑤神戸の個性を発揮することによる「選ばれるまち」の実現
- ⑥芸術文化の普及啓発拠点として誰もが芸術文化に触れる機会を提供

○施設計画

次の3ホールその他、本番前のウォーミングアップから日常的な練習、芸術作品などを創造するために必要な諸室や、市民が気軽に利用でき、賑わいを創出するスペース等を整備します。

①大ホール（多目的ホール）

現・文化ホール大ホールの機能を継承するとともに、これからのホールとして求められる役割を果たすことを目指します。

・客席数1,800席程度

②中規模ホール（音楽ホール）

現・文化ホール中ホールの音楽利用への対応に加え、クラシック音楽の生音の響きを活かせる特徴あるホールとして整備します。

・客席数800席程度

③中規模ホール（多目的ホール）

現・文化ホール中ホールの舞台芸術利用の機能を継承するとともに、中央区の区民ホールの機能を備えます。

・客席数700席程度

※詳しくは、「新・神戸文化ホール整備基本計画（案）」をご覧ください。

4. 今後の取り組み

「新・神戸文化ホール整備基本計画（案）」は6月26日まで市民意見募集を行っており、提出された意見を踏まえ基本計画を策定します。

雲井通5丁目は、事業協力者と再開発会社を中心に、地権者の方々やバス事業者の意向等も踏まえ、事業化に取り組んでいきます。

また、7月からは「三宮クロススクエア」の実現に向けた社会実験を実施する等、三宮再整備を具体化する取り組みを進めていきます。

II 寄稿 神戸秘話第23回

『戦後初の女性議員高良とみ 激動の時代に世界平和を希求した 平和運動家』

(一社)兵庫県建築会 会長 瀬戸本 淳

彼女は天の声が聞こえていたに違いない。日本人を、アジア人を、全人類を愛して働き、不滅の仕事をした高良とみ。自伝「非戦を生きる」(昭和58年)でこう述べている。「今、私たちの国は、主体性もなくふらふらとして、アメリカの言うなりに右へ右へと動きつづつあります。私は戦後、ソ連や中国や、その他さまざまな国ぐにの人のびとに『日本は二度と同じまちがいを繰り返しません。平和の中に生きます』という決意を絶えず誓ってきました。私の尊敬するインドのガンジーさんやタゴールさんは、不戦こそが日本の生きる道だと私たちに教えられました」。

そして「自分の子供が隣の家の垣根を越えたならば、たとえ叱られても怒鳴られても、子供を返してほしいと頭を下げに行けば、必ずその心は相手に通じるに違いないと確信していました」と、東西冷戦時代の昭和27年(1952)、彼女がたった1人でソ連へ赴きモスクワ経済会議に出席したことが契機になり、日本と共産圏の国々との民間交流がはじまった。これによりシベリアに抑留されていた人々の情報が日本に流れ、日中民間貿易が開始されたのだ。

高良とみは明治29年(1896)にアメリカ帰りの土木技師、和田義陸と婦人運動家の邦子の長女として富山で生誕。父の転勤で関西へ転居し、2度目の転校で県立第一神戸高等女学校(後の神戸高校)の2年生に転入したが、やっと自分にあった学校に来たと水を得た魚のようにのびのび勉学に励み体を鍛えた。しかも「国家主義的な要素があったとすれば、それはこの神戸女学校時代に培われたのかも」と述懐している。

多感な少女はこの「神戸秘話」の初回で紹介した田中銀之助に憧れて音楽の道に進みたいと思ったり、日本画の絵描や歴史の先生にもなりたいと考えたり、気持ちが定まらなかった。そんな時、「英語を武器とすれば世界中どこへ行っても世の中がどんなに変わろうとも役に立つ」と母に助言され、日本女子大学英文科に進学した。卒業後はアメリカへ5年留学、帰国すると九州帝大の助手から日本女子大の教授に、そして戦後は参議院議員にと、当時の女性としては類まれなエリートコースをまっしぐらに進んできた。

彼女には並はずれた純粹さと、視野の広さ、そ

してそれに伴う行動力が備わっていた。戦後初めてソ連の鉄のカーテンをくぐり、中国の竹のカーテンの向こうを見てきた婦人議員として高良とみはその名を知られているが、戦前においてもドクター・オブ・フィロソフィーの肩書きを持つ心理学者として、常に社会の第一線で活躍していた。

「私が尊敬する人はガンジーとタゴール、親友はネルーと李徳全女史」と言っただけで済まない彼女のスケールの大きさは、日本女性の中では稀有のものだ。彼女の足跡は世界中にわたり、しかも心の交流を重ねて世界中に友人があり、師がいる。あたかも隣の家を訪問する気楽さで諸外国を訪ね歩く。たとえどんなに著名な相手であろうと臆せず自分の意見を堂々と述べ、意見を交換する。いったいこの行動力はどこからくるのか。そしてその行動力を支えた思想の根幹とは何であるのか、もう一度たどる必要があると考えている。

※敬称略 ※「非戦を生きる」高良とみ自伝(ドメス出版)などを参考にしました。



日本女子大学教員時代の高良とみ



1952年、北京の西苑空港にて出迎えをうける
日本女子大学成瀬記念館 所蔵

高良(こうら)とみ

明治29年(1896)～平成5年(1995)。
富山県出身。兵庫県立第一神戸高等女学校～日本女子大学と進学し、米国留学の後、九大医学部助手を経て日本女子大教授、帝国女子医専教授などを歴任。ウィーン国際婦人平和会議(大正10年)では世界平和の母ジェーン・アダムスやロマン・ロランと出会う。大正12年には来日したジェーン・アダムスの通訳として同行。昭和10年には上海で魯迅と面会。戦後、昭和22年民主党から参院全国区に当選、緑風会に移籍して2期12年努める。昭和24年世界平和者会議に出席し、以後、国際平和運動に奔走。同年には戦後はローマ法王に会い戦犯の減刑を請願。昭和27年にはモスクワ世界経済会議に出席(グロムイコ会見、スターリンへの手紙「数十万の日本の息子達を探して遠くシベリアへ来た母の一人、高良とみ」)。同年日本人として初めて新生中国を訪問し、第一次日中民間貿易協定を締結。昭和28年日本婦人団体連合会(婦団連)を結成し、副会長となる。インドの詩聖タゴール(アジア初のノーベル文学賞受賞者)との出会いが彼女の人生に革命的变化を引き起こした。著書に自伝「非戦(アヒナ)を生きる」、タゴール詩集「ギタンジャリと新月」など。平成14年「高良とみの生と著作」(全8巻ドメス出版)が刊行。勲二等瑞宝章受章(昭和47年)。家族:母=和田邦子(神戸の婦人運動の先駆者)夫=高良武久(慈恵医大名誉教授)長女=高良真木(洋画家)二女=高良留美子(詩人)
※月間神戸っ子2018年11月号から転載しました。

Ⅲ 見学リポート
ぶらりまち歩き『西国街道と兵庫津』
(4) 湊八幡神社～七宮神社
㈱岡工務店 専務取締役 岡 澄彦氏、事務局

1 湊八幡神社・湊口惣門跡(兵庫町 1 丁目:旧湊町 1 丁目)

西国街道ビルを後にして、出会うのは湊八幡神社。長い歴史の中で幾度か再建されている経緯がある。現在の物は昭和 20 年 3 月の神戸大空襲で焼失していたのを昭和 37 年に再建したという。

神社の南東に「西国街道 兵庫 湊口惣門跡」の碑がある。その説明板をのぞき込むと・・・天正年間に池田信輝が兵庫城を築いたときには複数の惣門が設けられた。が、江戸時代に入ってからこれらを破却され、湊口・柳原口の両門のみが残った。古地図によれば惣門内には番所や高札があった。東からの西国街道はこの惣門に入り、柳原口にあった柳原惣門を出て、須磨に向かった。

惣門で西国街道から兵庫津に出入りする人々を点検していたと見える。現代における柳原ランプ(阪神高速)がその機能だと言いたい、柳原ランプはそこまで大きくはない(しかし昭和 41 年に神戸線で京橋と共に最初に開業したランプという意味で興味深い)。



上、左: 湊八幡神社前の湊口惣門の復元図と西国街道の碑
右: 迷い子のしるべ石

閑話休題。

湊八幡神社の境内を覗いてみると、ここに「迷い子のしるべ石」なるものがある。警察活動のなかった時代に迷い子探しの一助として建てられたと伝え聞く。現代でいうなら(殺伐とした表現だが)監視カメラ設置に相当するののか。

幕末から明治にかけて、全国の寺社や橋のたもとなど人通りの多いところに「迷い子しるべ石」が設置された。片面に「たづぬる方」もう片面に「をしゆる方」と刻まれ、迷子を捜す親と見つけて保護した親が、子の名前や特徴を記した紙を張って情報交換した。近世、迷い子は都市の発展とともに大きな問題となり、生き別れをなくそうと幕府はその対応を町の住民にゆだねた。関西発祥とみられ、最古のものが北野天満宮にあるという。

2 鎮守稲荷神社(西出町)

次に国道 2 号線へ下ってみる。鎮守稲荷神社に出会う。諸説あるが、寛政年間から商売繁盛・交通安全・防火守護の御利益のある「ちぢみさん」として西出町の住民に親しまれてきた。いつもなら車両の加速と共に勢いよく通過する地点だが、今日はまじまじと見てゆくことに。高田屋嘉兵衛から海上安全を祈願して献上された灯籠も境内に存在する。後述の松尾稲荷神社同様、ここにも戦前に作られたビリケン像は鎮座する。



鎮守稲荷神社と高田屋嘉兵衛献上灯籠

3 高田屋嘉兵衛本店跡(西出町)と竹尾稲荷(七宮町 1 丁目)

さらに、高田屋嘉兵衛ゆかりの石碑を訪ねて国道 2 号線を南へ下る。嘉兵衛本店跡の石碑を訪れる。淡路島に生まれた嘉兵衛は兵庫区西出町に来住、江戸通いの船に乗り込み、若くして船持ち船頭となる。北前船での交易に従事したことで西出町に本店を構え、後に設けた函館の拠点を中心に、その基盤整備に尽力した。さらに蝦夷地交易を許可されてからは、幕命で択捉島の御用船頭となり航路を開いた。このあたりは司馬遼太郎の小説でおなじみであろう。

道路を隔てて向かい側に竹尾稲荷神社がある。ここには嘉兵衛の顕彰碑が誇らしげに存在する。この碑は昭和 28 年に育友会により当時の入江小学校に設置された。年表も設置されているので、なじみのない方でも嘉兵衛の偉業をかつまんで知ることができる。それを平成 5 年に現在のこの位置に移設されたというから、この一角は高田屋嘉兵衛ワールドといっても過言ではない。同日も、歴史探訪の一団が来訪していた。



上 高田屋嘉兵衛本店跡の碑
下 竹尾稲荷神社 右奥に嘉兵衛翁顕彰碑

4 七宮神社(七宮町 2 丁目)

七宮の交差点に戻る。平清盛が兵庫津の整備で兵庫駅北にあった塩樋山を切り崩し埋立てに使ったところ暴風雨で工事が進捗せず、大己貴命を祀っていた山に秘められた神の怒りであった。そこでこの地に社殿を建立して大己貴命を遷座したところ、風雨も収まり兵庫津の開港が実現した。七宮神社の縁起とされる。

また先述の択捉航路開拓のために出航するのに先立って、西出町に住んでいた高田屋嘉兵衛が七宮神社に3隻の模型船を献納して海上安全を祈願した。

これ以降航海安全祈願に海上業者が参拝するようになったという。



西国街道を“ぶらまち”して、第 4 回目にしてようやく兵庫津に入ることとなった。ただ、神戸駅では湊川神社に寄り道してその歴史的意義を訪ねてきたので、その報告は西国街道を終えてからにしたい。

今回は、国道 2 号線を挟んだ兵庫津入口の周辺であるが、この辺りは江戸期の絵地図から「佐比江」の入り江となり、高田屋嘉兵衛翁の店舗周辺でもあり縁の神社が多数存在し、献上品や顕彰碑により翁の偉大な足跡がよく理解できる。

今回は、記念講演会を行った岡方倶楽部から兵庫城周辺を経て「西の惣門」までを紹介したい。

文化文政時代当地区周辺図 (竹尾稲荷神社)



鎮守稲荷神社のピリケンさん
効用 足をくすぐり笑うと願いが叶うという。(神戸ではピリを嫌って「ピ」リケン)

IV 花 だ よ り
山法師 (ヤマボウシ) : 摩耶山天上寺
(神戸市灘区摩耶山町)



摩耶山天上寺は、大化2年(646年)インドの渡来僧法道仙人による開創とある。また、先の県政150周年記念講演では、歴史ソムリエ・高松良和講師から弘法大師空海による摩耶山名の由来の説明があった。

オテル・ド・摩耶の直ぐ傍にありながら、お参りしたこともなく、5月には33年に一度の秘仏三尊御開帳が行われるとの報道があり、参拝させていただいた。その時に、お寺の敷地に神戸市の「市民の木」に指定されているヤマボウシの巨木があることを知り、改めて6月の開花時期に訪問することとした。

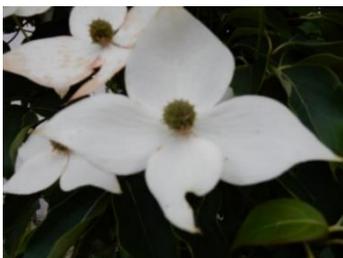
神戸市内の住宅地では、5月下旬には既に満開となっていたが、摩耶山頂では1週間以上開花が遅く従来は6月の中旬となっている。

下見をして、その大きさに開花の状況を想定はしてみたが、6月8日(今年は少し早い開花)の訪問で見たのは予想をはるかに上回る、全身雪をまとった如くの豪快な白一色の巨木がそこにあった。その概要は、次のとおり。

樹高 12m、 幹回り 1.1m2本の二股
枝張り 11m 樹齢 推定160年

兵庫県下二番目の大きさであるが樹形の美しさは県下一番といわれる名木であると紹介されている。平成26年4月1日「市民の木」に指定された。写真でその様子を想像いただきたい。

ただ、この会報が発行される7月には既に花期は終わっているが、是非来年はご覧いただければと思う。なお、ヤマボウシの花に見える白い部分



は「苞^{ほう}」という葉の変形したもので、4月号のザゼンソウ、ミズバショウやハナミズキ(アメリカヤマボウシ)なども同様のものである。



二股に分かれていることが樹形を大きく美しく広げることになったものと思われる。



孝徳天皇勅願寺の碑とアジサイ
(18'06.23 撮影)



この天上寺さん、山門からの石段は少々きついものの両側のアジサイや句碑を眺めながらゆっくりと登っていく。境内に入ると正面に空海弘法大師の創建に係る摩耶夫人堂があり、帝釈天を従え中央にふくよかな摩耶夫人像が祀られている。女人守護、安産・子授けの守り本尊となる。(安産腹帯発祥霊場)

夫人堂から金堂にかけて、切利天上の神秘的な仙境を現した摩耶天空之庭が配備され境内を彩っている。金堂には、御前立のご本尊十一面観音を中央に七観音が祭られ、この観音を護る毘沙門天と不動明王がその前に配置されている。

この天上寺秘仏三尊の「十一面観音」「毘沙門天」「不動明王」は、普段は金堂内陣の宮殿にお祀りされており、33年に一度この扉が開かれる。

本年が33年目で、前期は5月1日から15日間、後期は8月1日から15日まで御開帳される。

摩耶山天上寺縁起より

大化2年(646年)インドの渡来僧法道仙人により開創。

釈尊が切利天(仏教の世界観の霊山・須弥山の頂上に帝釈天を天主とする切利天があると言われる)に在す生母・摩耶夫人に自ら造頭した十一面観音小像を遺られ、時を経て法道仙人がその霊像を授かって来朝し、観音像を根本秘仏として「切利天上寺」を開創した。

その後、弘法大師空海が唐留学からの帰朝に際し、梁の武帝作の女人守護の仏母摩耶夫人像を授かり摩耶夫人ゆかり深い天上寺に摩耶夫人堂を建立し、夫人像を本尊として「仏母摩耶山」と号した。

爾来、女人守護、安産・子授けの守り本尊となる。(安産腹帯発祥霊場)

※ 法道仙人は元年5月号の伽耶院でも開基として登場しました。



▲金堂(七観音さま—ご本尊の十一面観音さまは女人の本地位ともいわれています—)

上から順に、山門、摩耶夫人堂と摩耶夫人尊、
天空の庭と金堂、金堂仏像

※掲載の各ご本尊の写真是、天上寺様のご了承を得て配付のチラシから転載しました。

V お知らせ

◎ 研修交流会



日 時 令和元年6月20日(木)

会 場 城山ゴルフ倶楽部

成 績 (敬称略)

優 勝	前川 真一郎	(前川建設)
準優勝	瀬戸本 淳	(瀬戸本淳建築研究室)
第3位	瀬尾 眞澄	(日光電気工業)
第4位	立花 充	(ノバック)
第5位	和田 好勝	(明和工務店)
第6位 (当月)	川端宏幸	(神鋼不動産)
第7位	平井 保夫	(大阪ガス)

梅雨は何処かの晴天に恵まれ、芝の手入れも行き届き快適なラウンドとなりました。

今回は、若手中心の組で気楽に回れたのが功を奏し、ようやく本領発揮でイン・アウトとも無難にまとめた前川さんが初優勝を飾りました。

2位の瀬戸本会長、本日のベスグロでもう一步で70台という快進撃でしたが、ハンデが味方せず優勝への道は遠かった、となりました。

3位の瀬尾さんは手堅いゴルフで何時ものとおりに上位に入ってきました。

それと、竹村名誉顧問におかれては今回のラウンドをもってゴルフ人生に終止符を打たれるとのこと。建築会コンペ158回中、100回以上は参加されてきたようですが、最後にこのコンペを選んだいただいたことは光栄でした。記念の品をお贈りし今後のご健勝を祈念しました。

次回は、同会場で10月24日(木)9:03インスタートとなります。五組でエントリーしていますので是非ご予約をお願いします。

写真は神鋼不動産、ゴルフ場提供の豪華賞品(お肉類)。次回こそ。



◎ 行事予定

1 7月月例会(第467回)

日 程 令和元年7月11日(木)12時～

テーマ『豊岡の挑戦～Local&Global Cityを目指して～』

講 師 豊岡市長 中貝 宗治氏

参加枠は残りわずかとなりました。

2 令和元年度第3回理事会兼

第1回事業推進委員会

日 程 令和元年7月17日(水)

会 場 神戸市教育会館 205号室

3 9月月例会(第468回)

日 程 令和元年9月12日(木)12時～

テーマ『新興国における日本企業の活動状況』

講 師 兵庫県立大学“国際商経”学部長

山口 隆英氏

県立大学では今年度から英語授業による新学部が設立され、講師は初代の学部長に就任されました。秋入学を控えご多忙の中を講演にお越しいたできます。中国による一帯一路政策の問題も含めての新興国の現状をお話いただきます。

7月下旬のご案内です。ご予約をお願いします。

4 見学研修：芸術に親しむ月間

7月3日14時～ 県立美術館

① 第2展示場(Ando Gallery)

② 学芸員による吉野石膏コレクション解説

③ 『印象派からその先へ 神戸でルノアールに会う』鑑賞

7月31日19時～ 県民ホール

サクソフォン カルテット コパーン リサイタル

何れも詳細は事務局へお問合せください。

◎ 事務局だより

鬱陶しいお天気も恋しくなっていたところへ熱低(～台風)のお出ましとなりました。被害は聞いていませんが恵みの雨となったのでしょうか。また、G20大阪サミットが28日から、既に二国間協議も始まり大阪は厳戒態勢で大変です。台風も遠慮をしたみたいです。

会報編集、大詰めのこのコーナーに入った段階でフリーズ。止むを得ず強制終了でやり直しを覚悟したところ、復元機能でほぼ手戻りはなく助かりました。常時のバックアップが肝要です。皆さんもお気を付けて。

事務局 : 谷 純夫、石井滝実子

電 話 : 078-996-2851

FAX : 078-996-2852

Email : archit-k@axel.ocn.ne.jp

広報コーナー：住宅再建共済制度

『兵庫県住宅再建共済制度』の詳細は次からご覧いただけます。
 兵庫県住宅再建共済基金HP → <http://phoenix.jutakusaiken.jp/>

フェニックス共済は兵庫県が条例に基づいて実施する「安全」・「安心」の制度です。

フェニックス共済の概要

住宅再建共済制度

加入者	県内に住宅をお持ちの方
負担金	年額5,000円
対象	県内に存在する住宅
対象被害	地震、台風、水害等あらゆる自然災害
共済期間	毎年4月1日から1年間
給付金	給付対象 半壊以上で修繕・購入* 200万円 全壊で修繕 600万円 大規模半壊で修繕 100万円 半壊で修繕 50万円 半壊以上で修繕・購入・修繕などを併せ、賃貸住宅に入居した場合は、

家財再建共済制度

加入者	県内にお住まいの方
負担金	年額1,500円
対象	県内に存在する住宅にある家財
対象被害	地震、台風、水害等あらゆる自然災害
共済期間	毎年4月1日から1年間
給付金	給付対象 全壊で購入・修繕 50万円 大規模半壊で購入・修繕 35万円 半壊で購入・修繕 25万円 床上浸水で購入・修繕 15万円

一部損壊特約

加入者	住宅再建共済制度加入者のうち高層（3階以上）の方
負担金	年額500円（住宅再建共済負担金に追加）
対象被害	地震、台風、水害等あらゆる自然災害
共済期間	毎年4月1日から1年間
給付金	給付対象 一部損壊（損害割合10%以上20%未満）で修繕・購入・修繕した場合 25万円 一部損壊（損害割合10%未満）で修繕・購入・修繕などを併せ、賃貸住宅に入居した場合など 10万円（一部損壊特約あり）

※ 県内の地震被害の発生率は25年以内は0.5%です。

下記宛てにお電話いただくか、この用紙に記入しFAXをお願いします。

（ご希望に即）

加入したいので詳しく説明に来てほしい ()月()日()曜日()時頃

申込み用パンフレットを送ってほしい ()部

（お名前） フリガナ _____

（ご住所）〒 _____

TEL: _____ FAX: _____

兵庫県企画開発局防犯企画課 庶務係

☎078-362-9400（平日9:00～17:00）

FAX078-362-9405

フェニックス共済

兵庫県が提供する「住まい再建のしくみ」～

兵庫県住宅再建共済制度

1 年5,000円で最大600万円

2 簡単な加入！迅速な給付！

3 他の保険・共済と関係なく加入・給付

県内にお住まいの方の
住宅再建共済制度

年額**5,000円**で
最大**600万円**の給付

※市町村が実行するより加保料も高く、出戻り以上の給付を受ける

県内にお住まいの方の
家財再建共済制度

年額**1,500円**で
最大**50万円**の給付

※県内にお住まいの方にも加入可

分譲マンションにお住まいの方も加入可

さらにワンコインで追加加入できます！**プラス**

住宅再建共済制度に上乗せ加入でもっと安心！
※一部損壊特約のみに加入した方とは異なります。

住宅再建共済制度（一部損壊特約）

年額**500円**で補修等に**25万円**の給付

※市町村が実行するより加保料も高く、出戻り以上の給付を受ける

全壊	年額5,000円で最大600万円
大規模半壊	年額5,000円で最大600万円
半壊	年額5,000円で最大600万円
一部損壊（損害割合10%以上20%未満）	年額500円で補修等に25万円

フェニックス共済（兵庫県住宅再建共済制度）は、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、兵庫県が創設して運営している制度です。

地震、豪雨など、自然災害で住宅が損壊したとき、再建を支援します。

そうだ フェニックスがあった